



前橋市生涯学習
奨励員連絡協議会

責任者 大井常利

事務局
前橋市教育委員会
生涯学習課内

〒371-0023
前橋市本町2-12-1
前橋プラザ元気21
3階

☎(027) 210-2198

生涯学習と公民館のかかわり

学ぶ意欲で集う公民館

中央公民館の館長をしております西澤と申します。生涯学習奨励員の皆様には日頃より中央公民館の運営にご協力をいただいておりますことに感謝を申し上げます。

私が市役所に入職した昭和五十七年の当時、すでに「生涯学習」という言葉はあったのかも知れませんが、当時の担当課の名前は社会教育課でした。そして、その後「生涯教育」という言葉があったように思います。が、今は「生涯学習」が主役になっています。「教育」というと他者からの強制のようなものを想像しますが、「学習」という言葉には自ら行う主体性を感じます。生涯学習は個人がその意思によって続ける学びであり、意欲がなければ続かないものだと思います。

公民館では本当に毎日、多くの皆さんが

学びを地域に還元

学んでいます。中央公民館の一日の平均利用者は約千人です。ほとんど毎日、「通学」されている方も多く、皆さんの学習意欲には本当に頭が下がります。

中央公民館館長 西澤 秀明

「つどう」「まなぶ」「むすぶ」



私が着任したとき、上司から、公民館の役割は、「つどう」「まなぶ」「むすぶ」であると言われました。すぐにはピンときませんでしたが、

住民の皆さんが公民館に「集い」、そこで「学び」、そして学ぶ皆さんが連携、協力してより良い地域を作る、「公民館」はその場になるとともに、場を作り、そのサポートを行う、それが公民館の役割だという意味だと今では認識しています。この学びを地域に生かすという点では奨励員の皆さんと公民館は同じ目的や役割を持っているように思います。

公民館には条例によって使用料が定め

られています。一定の要件を満たす利用団体は使用料を免除されます。その理由は公民館を利用される方々の学びが「他人のために役立てていく学び」であるからだと言われます。

生涯学習に取り組む皆さんが公民館を利用し、それがより豊か

市制130年 記念表彰

豊かな地域へ向けて活動

前奨連が表彰を受ける

との文面が記されています。

前奨連は、発足してから今年で三十五年の歴史を刻みました。この間、奨励員は各町で自治会と共に町づくり活動に参画するほか、全市的な活動として、市民参加の「生涯学習フェスティバル」や「生涯学習実践研究会」「前奨連セミナー」の開催など先輩が築いた伝統を継承しつつ、豊かな地域へ向けて活動を続けてきました。

大井会長が個人表彰

今回の記念式典では、団体とともに各分野で、長年にわたり活動をした個人の功労者表彰も行われ、前奨連からは大井常利会長が表彰を受けました。

表彰状には「多年にわたり、前橋市の発展に尽くされた功績は顕著であり、心から敬意を表します」

(広報委員会)

地区だより ④

地域行事の復活を目指して

活動を推進

前奨連理事

桂萱地区 理事

吉岡 一男

桂萱地区の取り組み

コロナ禍で行事ままならず

桂萱地区は前橋市の中央からやや南寄りに位置し、令和四年八月三十一日現在で二万八千人強の人口と一万三千強の世帯数を持ち、二十一の自治会から成っています。県民健康科学大学などの教育施設や心臓血管センターなどの医療施設があり、上泉伊勢守信綱の出生の地でもあります。

桂萱地区でも、例年開催されていた行事等がコロナ禍のために中止になりました。代表的なものでは、自治会長との合同野外研修会や桂萱地区文化祭や生涯学習実践研究会が挙げられます。

再開される地域行事

今年度は桂萱地区文化祭や生涯学習実践研究会が再開されることになりました。桂萱地区文化祭は十月二十九、三十日の土日に桂萱公民館で開かれました。生涯学習奨励員は毎回「かいが

や ふれ愛コンサート」と称して、高等学校の吹奏楽部に一時間ほど演奏してもらっています。今回は、群馬県立前橋工業高等学校に頼みました。新型コロナウイルス対策のものでしたが、アニメの主題歌や演歌などの馴染みのある曲を含めた演奏で、満席に近い聴衆を魅了しました。

また、生涯学習実践研究会も今年度から再開されます。桂萱地区は第五ブロックに属しており、このブロックの発表が前奨連の副会長の笠原氏のコーディネートのもとに「身近な学びでまちづくり」を基本テーマとして桂萱公民館で十二月九日に実施されます。

新しい試み

「ふるさと探検調査票」

それから新しい試みとして、「ふるさと探検調査票」を各自治会の生涯学習奨励員さんに今年中に提出してもらうことになりました。これは桂萱地区の連絡協議会の齋藤副会長の発案で始められたもので、生涯学習奨励員の皆さんは、所属の町内に関する施設や史跡等には詳しい人が、桂萱地区の他の町内については知らない人が多いので、その知識を共有する目的で始められたものです。自分の属する町内の情報を「ふるさと探検調査票」に書いていただいて、それをまとめて桂萱地区全体の地図や説明資料等として桂萱地区の皆さんに提出できればと考えています。

生涯学習奨励員。いま、わが町で。

問屋町公園を活用し

各種のイベント実施

元総社地区・問屋町奨励員

設楽 正治

一、問屋町の誕生

昭和四十一年、前橋市内に点在する卸問屋を、一か所に集合させた問屋団地を設ける構想が浮上し、昭和四十四年に前橋市問屋町が誕生しました。問屋町の総面積は二十五万平米で一丁目の問屋団地は十二万平米になり全体の四十八パーセントを占めます。当時の居住者数は、一丁目二十六世帯八十八人、二丁目九世帯三十七人合計三十五世帯百二十五人でした。現在は、一丁目三十世帯四十一人、二丁目二百七十七世帯四百二十七人合計三百七十七世帯四百六十八人になっています。

二、問屋町自治会の発足

問屋町発足の当初の地籍の大部分は総社町に属し入学児童の学校区は総社小学校となり、住民から元総社小学校が近いので何とかならないかの声が上がリ、急遽自治会を立ち上げて市に陳情しました。昭和五十三年四月のことです。

三、わが町の誇り問屋町公園

問屋町公園は問屋団地と同時に完成しました。東側にグラウンドを配し、ソフトボールや少年野球が使用できるように周囲を高層フェンスで囲んであります。正月には、広いグラウンドでどんどん焼きを行い無病息災を祈願します。併せて新年互例会の場となり豚汁・甘酒をふるまい交流の場を温めます。

南北西面は公園全体に色とりどりの花々、延べ百種類が咲き誇り、住民のやすらぎの場になっています。花クラブ代表の中村絹子さんの努力の賜物で、誰もまねのできない心血を注いだ傑作です。公園清掃は、十一月を除き四月から十二月までの第三日曜日に実施しています。

人生を充実させることが

生きがいの基本

上川淵地区・山王町二丁目奨励員

塩原 義生

前橋市の分譲地として、約四〇年を経過しております。人口一三〇〇人。五七〇世帯で、高齢者率の高い地域です。

生涯学習奨励員は約三〇年以上、
一〇名以上が交代しております。

町内誌「ふるさと山王」は十五年以上
続きましたが、個人情報問題から
休止、その後は生涯学習の観点から、
名所旧跡を巡る学習の旅として、十五
年以上続きましたが、高齢化とともに、
参加者が減少した為、現在は休止して
おります。

最近の活動としては、いきいきサロ
ンや自主防災会と共同して高齢者向け
の食事・体操講座、手芸・園芸や防災
訓練講座などを、町内集会所にて実施
しております。

また、小学生の夏休みには、子供育
成会と共同で絵画教室を開き、生涯学

生甲斐のある生活を目指して

広報を発行

城南地区・今井町奨励員

福田 寛司

町の広報紙「生涯学習だより荒砥川」
の創刊号が出されたのは、平成元年七
月十五日で今から三十二年前になりま
す。その創刊号に当時の奨励員さんが
生涯学習とは「生甲斐の有る充実した
生活が出来る事を目標に、自分の意志
で自分にあった手段方法で楽しく生涯
を通じて学習する事」と記しています。
また、その御手伝いをさせていただく
のが生涯学習推進委員ですと書いてい
ます。

習奨励員や高齢者・小学生の交流がさ
れております。

元前橋市市長の萩原弥惣治さんの著
書から、一部ご紹介いたします。「単に年
齢が若いから青春だということでは
ない。目的のない人生に青春はない。
八十才、九十才になっても、明確な目
的を持った人生は、まさに青春真っ只
中にあり、終生現役だと言える」と書
かれています。

人間とは元来完璧なものでなく、出
来る限り完璧な姿に近づけようと、ひ
たすら努力することが必要です。

それぞれの人生の段階に応じた目的
意識を持つて、人生を充実させること
が、生きがいだと思います。

創刊号と第二号は手書き、第三号以
降はワープロ打ちに変わっています。
紙面の割り振り等苦労した様子が伺
えますが、ワープロの習得には特に
苦労したという記事が後に書かれて
います。隔月発行出来ればと書かれ
ていますが、今年の七月に一九六号
を発行していますので、年六回以上
年によっては増刊号を発行したもの
と思われまます。

記事の内容は町や地域の行事のお知
らせ、結果の報告、各種団体の役員の
紹介等と現在と変わりますが、地域
の歴史の研究や叙述が多いようで、参
考になります。以来担当する人は何代
も変わりましたが、それぞれ特色を
もって広報活動に当たってきました。

現在町の行事や地域の催し物のほと
んどが新型コロナウイルスの影響で中止
や延期になっています。そのため記事
が少なく苦労しています。また、地域
の多くの人を紙面に載せたいと思っ
ていますが、プライバシーには特に気
をつけています。敬老の日前後には高
齢者の皆さんを紹介する意味から八十歳
以上の人の一覧表を長い間載せていま
したが、それも取りやめました。

長い年月続けられてきた仕事を引き
受けるのはプレッシャーのかかるもの
です。これからも心して続けていき
たいと思っています。

町社協元年を記念して

地域に根付いた福祉を

一中地区・南町二丁目奨励員

持田 保

一中地区生涯学習として南町二丁目
が取り組んでいる「前橋市が進める生
活支援体制整備事業」という町社協設
立の取組をご紹介したいと思います。

来年から前橋市長寿包括ケア課、前
橋市社会福祉協議会が二八四自治会に
設立をすすめています。令和三年にモ
デル事業として参画し、自治会、長寿
会、青年会、商工会、子供育成会そし
て民生・児童委員、保健推進員をメン
バーとして何をすべきか決めるため全
住民から「困りごとアンケート」を実

施しました。

令和四年を元年として、モデル事業
のメンバーでの活動は、福祉部（各種
団体より選出された方と民生・児童委
員、保健推進員にて構成）に引き継が
れ昨年度のアンケートなどを含め地域
に根付く福祉をテーマとして、次のよ
うな事を行うことにしました。

○困りごとアンケートとして

- ①草取りや木の剪定
- ②地震等災害時の避難
- ③介護サービスの利用方法

○健康増進と世代間交流を目的として

- ①輪投げ大会
- ②ヤクルト販売会社による健康教室
- ③ウォークラリー大会

○全住民参加として

野外作品展（七月十一月公園に展示）

○見守り活動の一環として

- ①空き家ノートパンフレット
- ②在宅医療・介護支援パンフレット
- ③敬老会（コロナ禍）
- ④振り込め詐欺防止パンフレット

やってみなければ改善も出来ないの
で、出来るだけ実施して行く予定です。
これからも福祉部活動の中でのいろ
んな提案がなされて、この地域にあっ
た町社協活動の定着を目指します。

生涯学習実践研究会

二〇二二年もコロナ禍によって事業の中止を余儀なくされる中で、三年ぶりにブロック別の実践研究会が無事開催されました。

生涯学習奨励員、自治会長、各町生涯学習推進員を一堂に会して、各地域の取り組みの実践例を学び、今後の地域活動に活かすことを目的に実施されています。

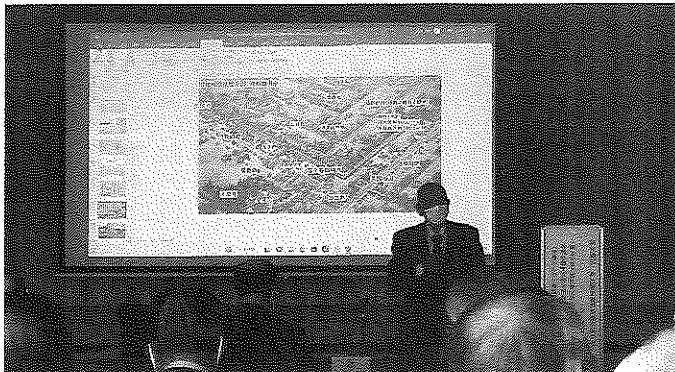
奨励員制度が出来て以来続けられているこの事業は、社会情勢の変化で近年は、町づくりの重要性が指摘されています。

今回の実践研究会のテーマである「身近な学びで町づくり」を生涯学習活動にどうつな

身近な活動を討議 市内5ブロックで開催

集まることへの工夫や出ている場づくりが努力されていることがわかった。内容の詳細については記録集を作成し配布する予定です。

が課題です。下記の日程と組み合わせで実施されました。コロナ禍で活動が制限される中でユニークな取り組みや



日時・会場等

ブロック名 会場館	地区名 コーディネーター					実施日時
第1ブロック 中央公民館	一中	旧二中	三中	旧四中	五中	令和4年12月13日(火) 午後2:00～3:00
	二中地区理事: 茂木 勝彦					
第2ブロック 永明公民館	上川淵	下川淵	永明			令和4年12月12日(月) 午後1:30～3:00
	前奨連事務局長(永明地区理事): 吉田 睦					
第3ブロック 総社公民館	東	元総社	総社	清里		令和4年12月7日(水) 午後1:30～3:30
	前奨連会長(総社地区理事): 大井 常利					
第4ブロック 芳賀公民館 ※オンライン併用開催	芳賀	南橘	富士見			令和4年12月20日(火) 午後2:00～4:00
	前奨連監事(芳賀地区理事): 中山 洋子					
第5ブロック 桂萱公民館	桂萱	城南	大胡	宮城	粕川	令和4年12月9日(金) 午後2:00～4:00
	前奨連副会長(大胡地区理事): 笠原 弘					

コロナ禍の下で 学習の継続を

「生涯学習新聞」を発行

前橋市生涯学習課

井上 乃愛

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「生涯学習フェスティバル二〇二二」が中止となったことを受け、「生涯学習新聞 学びの継続を」コロナ禍での学習活動」を発行しました。新聞はA4判の両面刷りで作成し、表面は前橋市生涯学習奨励員連絡協議会のコロナ禍での活動や会長の思い、公民館講座について掲載しています。裏面は生涯学習フェスティバルに協力いただいている、前橋市読み聞かせグループ連絡協議会と国立赤城青少年交流の家からの、活動の様子や役立つ情報を掲載しています。今後の自治会活動や生涯学習活動の参考にしたいだけだと思います。

あゆみ

前橋市教育文化功学表彰(敬称略)

社会教育部門

飯塚 宗夫

(前岩神町奨励員・前前奨連理事)

中山 洋子

(勝沢町奨励員・前奨連監事)

根岸 輝治

(前下川町奨励員・前下川淵地区会長)